

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成30年3月15日(2018.3.15)

【公開番号】特開2016-63985(P2016-63985A)

【公開日】平成28年4月28日(2016.4.28)

【年通号数】公開・登録公報2016-026

【出願番号】特願2014-194579(P2014-194579)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

A 6 3 F 7/02 3 1 5 Z

【手続補正書】

【提出日】平成30年1月30日(2018.1.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

可変表示を実行可能であり、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

未だ開始されていない可変表示に対応する保留表示を、第 1 態様、または該第 1 態様とは異なる第 2 態様により保留表示領域に複数表示可能な保留表示手段と、

保留表示に対応する可変表示が開始されるまでに、保留表示の態様を前記第 2 態様にて表示させる先読み予告演出を実行可能な先読み予告演出実行手段と、

表示されている複数の保留表示の少なくとも一部を遊技者が視認困難または視認不能とする障害演出を実行可能な障害演出実行手段と、

を備え、

前記障害演出実行手段は、視認困難または視認不能とする保留表示の数が異なる複数種類の前記障害演出を実行可能である

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 6】

前記課題を解決するために、本発明の請求項 1 に記載の遊技機は、

可変表示を実行可能であり、遊技者にとって有利な有利状態（例えば、大当たり遊技状態）に制御可能な遊技機（例えば、パチンコ遊技機 1）であって、

未だ開始されていない可変表示に対応する保留表示を、第 1 態様（例えば、通常態様）、または該第 1 態様とは異なる第 2 態様（例えば、特別態様）により保留表示領域に複数表示可能な保留表示手段（例えば、合算保留記憶表示部 18c）と、

保留表示に対応する可変表示が開始されるまでに、保留表示の態様を前記第 2 態様にて表示させる先読み予告演出を実行可能な先読み予告演出実行手段（例えば、演出制御用 CPU 101 が図 22 に示す先読み演出決定処理の S 6 7 1 0 8 ~ S 6 7 1 1 2 を実行した

後に図 27 に示す演出図柄変動開始処理を実行することで保留表示を通常態様から特別態様に変化させる先読み予告演出を実行する部分)と、

表示されている複数の保留表示の少なくとも一部を遊技者が視認困難または視認不能とする阻害演出(例えば、隠蔽演出)を実行可能な阻害演出実行手段(例えば、演出制御用 CPU 101 が図 20 に示す演出図柄変動中処理を実行することで保留表示をオブジェクトで隠蔽する隠蔽演出を実行する部分)と、

を備え、

前記阻害演出実行手段は、視認困難または視認不能とする保留表示の数が異なる複数種類の前記阻害演出を実行可能である(例えば、部分隠蔽パターンの隠蔽演出と全隠蔽パターンの隠蔽演出とを実行可能である)

ことを特徴としている。

この特徴によれば、阻害演出により保留表示が遊技者から視認し難くなった状態で保留表示が変化することで、いずれの保留表示の態様が第 1 態様から第 2 態様に変化するのかを遊技者に事前に認識されてしまうことによる興趣の低下を防ぐことができる。